

【 大 会 規 定 】

本大会は、全日本公認野球規則および競技者必携に準じて行うが、次に掲げるものは本大会の規定として特別に設定する。

- 1 大会は、トーナメント戦方式とする。（抽選番号が若番チームを一塁側とする）
- 2 ゲームは、全試合6回とする。ただし、**90分が経過した時点で**、新しいイニングには移らない。また、同点の場合は特別延長戦を1回行い、それでもなお同点の場合は抽選で勝敗を決める。ただし、決勝戦はこの規定から時間制限を除外する。
- 3 本大会は、5回以降7点差でコールドゲームとし、正式試合とする。
(準決、決勝戦にも適用する)
- 4 各チームの監督・主将はゲーム開始30分前に全員ユニフォームを着用のうえ、到着したことを大会本部に届け出ることとし、オーダー用紙4部に記入（フルネーム、フリガナ）のうえ、大会本部に提出しメンバーチェックを受け、審判員立ち会いのもとに攻守を決定する。
- 5 特別グラウンドルールは、オーダー用紙提出時に審判員より監督・主将に説明する。
- 6 ベンチ内へのメガホンの持ち込みは1個とし、監督・コーチに限り使用を認める。
- 7 ベンチの人員は、代表者・監督・コーチ・記録者・熱中症対策員1名（女性が望ましい）の6名以内で、選手は25名以内とする。
- 8 試合球は、（財）全日本軟式野球連盟公認小学生用（ケンコーボールJ号球）とする。
- 9 打者及びコーチボックスの選手は、必ずヘルメットを着用し、捕手は、ヘルメット及びプロテクター、レガード並びにファールカップを必ず着用すること。
- 10 試合中の抗議は認めない。ただし、ルール間違いの抗議は、監督に限り認める。
- 11 相手に対するヤジ、審判員に対するヤジ等は、一切禁止する。規定に違反した場合は、応援席も含めて退場処分とする。
- 12 大会中の負傷等の事故については、主催者は一切の責任を負わない。選手等の健康管理は各チームで行うとともに、参加者はスポーツ傷害保険等の保険に加入しておくこと。
- 13 大会当日は、健康保険証等を持参すること。
- 14 グラウンド周辺での飲食等については、後始末をして環境整備に努めること。
- 15 ファールボールの処置について
 - 1 一塁側は一塁ベンチ、三塁側は三塁ベンチが処置する。
 - 2 捕手の後方は、攻撃側が処置する。
 - 3 ファールボールの処置後はネクストバッターに渡し、打席に入るとき審判員に渡す。
- 16 投手の投球回数は「**（公財）全日本軟式野球連盟2024年競技者必携 競技に関する連盟特別規則 8投球制限【学童部】**」による「**1人の投手は、1日70球（4年生以下は60球）以内を投球できる。試合中に70球（60球）に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。**」のとおりとする。
- 17 1日目、2日目の塁審は、第1試合は第2試合から各2名、第2試合は第1試合から各2名。第3試合は第4試合から各2名。第4試合は第3試合から各2名。（球審は主催者が用意する。）準決勝、決勝は、4氏を主催者で用意する。
- 18 塁審は、前の試合の3回終了時に本部へ集合し、審判員の指示を仰ぐこと。
- 19 塁審の服装は、**審判帽子・白色のカッターシャツもしくはポロシャツ（インナーは黒色のアンダーシャツで無地のみ可）・黒色又は濃紺色のスラックスを厳守すること。**
※ただし、各地区で審判部指定の服装があればその服装でもよい。
シューズについては規定しないが、樹脂製ポイント等がついた滑りにくい物を準備すること。
- 20 メンバー登録の変更については抽選会の当日までとし、以後の変更は認めない。
- 21 大会運営に支障をきたした場合、翌年度開催する大会の当該地区にペナルティーを課すこととする。
- 22 試合中、試合中以外を含め、相手側選手やチーム関係者、審判員はもちろん、自チーム選手に対して、体罰や言葉の暴力は厳に慎むこと。全てにおいて注意処分とする。あまり目に余る場合は退場等の処分を指導者と責任者に科すこととする。